

第 29 回(令和6年度第2回) 南あわじ市子ども・子育て会議【要点記録】

日時: 令和6年 10 月 10 日(木) 18:00~20:20

場所: 南あわじ市役所 第2別館 2階 第5会議室

参加者: 南あわじ市子ども・子育て会議 委員 14 名(1名欠席)

事務局: 子育てゆめりん課長、同係長3名

オブザーバー: 健康課長、スポーツ青少年課長、ジャパン総研

会議の概要

1. 開 会 子育てゆめりん課長が開会
2. 議 題 副会長が挨拶、会長議事進行
 - (1) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定について
 - (2) その他
3. 閉 会 会長が閉会

1. 開会の要旨

事務局より、委員 15 名中 14 名(過半数)の出席。南あわじ市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定を満たしており、会議成立の旨報告

2. 挨拶

[副会長] 第 29 回南あわじ市子ども・子育て会議を開催できること、感謝申し上げます。世間では国政選挙や兵庫県知事選挙と目白押しで、一市民として大変興味がある。南あわじ市がどのように動いていくのか、子育てをどのようにやっていくのか、市の方針などを民生委員としても勉強している。本日は有意義な時間を過ごし、よい意見を出していただければと思う。

3. 議 題

(1) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定について

(資料「第3期南あわじ市子ども・子育て支援事業計画」に基づき事務局より説明)

【質疑応答】

[会長] 次期計画では、南あわじ市ならではの方向性というのがポイントになると思う。データ分析の説明であったように、乳幼児と 25~29 歳の層が目立って減少しているが、これはどこの地方都市でもある特徴か。

⇒[事務局] すべての地方都市を見たものではないが、豊岡市の農村部を見るとやはり 20 代前半は戻ってくる方が少ないため、人口減少の傾向はある。豊岡市は今、ジェンダーギャップの解消推進を行っているが、それでも若者の人口減少が課題として上がっており、子どもたちに「男女共同参画社会が叶っている社会と、そうでない社会、どちらに住みたいか」というアンケートを取ったと聞いている。また、自治会や議会のほとんどが高齢男性であることが問題ではないかという意見が出されたと視察の中で聞いた。地域の希薄化も問題としてあるので、まずは地域のつながりを取り戻すために企業とタイアップして、企業の中で男女共同参画を進めていき、

働きがいのある企業を増やしていくことで、地域の中にもそういう気運が醸成されて、住みやすいまちづくりにつなげていこうという取り組みを進めているということである。南あわじ市でも子育て応援コンソーシアムを立ち上げて、働きがいのある事業所づくりを進めている。子育て世帯向けの取り組みとしては、気軽に子どもを預けられないという意見から、平日の一時預かり事業を展開している。財源はこども誰でも通園制度ではあるが、目的は気軽さや子どもを預けやすい雰囲気づくりを進めるということ考えている。

[会長]子育ての第一義的責任は父母にあるということを重ねているため、保護者さんは気軽には預けにくいと思っている状況がある。

⇒[委員]預けたくても、一人では子どもの面倒も見られないのかという目で見られたらどうしようという思いや、下の子は預けられても上の子をどうするかという家庭環境が大きいように思う。南あわじ市だけではなく、全国的にそうだと思う。

⇒[委員]急に預けないといけなくなった場合に、預け先を知らない人もいると思う。

⇒[会長]預け先が子どもにとって安心できる居場所になるのか、親は心配だと思う。

⇒[事務局]平日の一時預かり制度を利用される方は、普段保育所に預けていない方が対象で、預けることで自分の時間を過ごせたという率直な意見もある。時間単位で気軽に預けられる場所ができてありがたいとか、いずれ保育園・幼稚園に預けるときに練習になったという感想もあり、そのような方向性で進めていければと思う。

[委員]申し込みにあたっては、電話で申し込むのか。

⇒[事務局]平日の一時預かりは事前登録制で、利用するときは電話で申し込みをする。ファミリー・サポート・センターはマッチングしないと預けられないが、一時預かりは常時保育士がいるので、空きがあれば気軽に預けることができる。

[委員]インターネットによる申し込みはないのか。

⇒[事務局]ネットで予約ができるよう、現在国でシステムを構築している。現在、こども誰でも通園制度は試行的実施のため、南あわじ市独自のネット申し込みは試みていない。電話で予約していただくことで、預けたい理由や預けてみての感想を聞くこともできている。

[会長]登録制というのは、病児・病後児保育と同じような感じか。

⇒[事務局]そうである。ファミリー・サポート・センターも登録制である。平日の一時預かりはゆめんセンターで実施しており、面識のある方に預けられる安心感がある。

[委員]子どもがやっと6か月になり、預けようと思って問い合わせたが、私の仕事が12時までで午前中の預かりも12時までのため預けられない。同じ理由で一歩踏み出せない人もいるのではないかと思う。預かり時間に関して、もう少し相談に応じてもらえればと感じた。

⇒[事務局]今のケースを見ると、まず6か月の子どもは保育所には入園できない。かつ一時保育も、1歳4か月からの利用になり、就業しているということで保育の必要性があるとみなされ、こども誰でも通園よりも、保育施設での一時保育になるケースが多いと思われる。一時保育であれば食事の提供もあり、利用時間も自由になる。こども誰でも通園制度は試行的実施ということで食事の提供を実施していないため、午前中は12時までとなる。

現状は午前 9 時から正午、午後1時から4時での利用となっているが、今後はニーズに応じて柔軟に考えていきたい。

[会長]今のケースだと、ファミリー・サポート・センターは可能か。

⇒[事務局]料金設定は違うが、8時から18時まで預かってもらうことはできるので、お昼をまたぐ場合や長めに預かってほしい場合は、ファミリー・サポート・センター事業を利用していただければと思う。

⇒[委員]ファミリー・サポート・センターは、0歳は預けられない(1歳～)。

⇒[事務局]そうである。その点は検討が必要だと思っている。

[委員]ファミリー・サポート・センターの利用が減ってきているのであれば、3歳までは一時預かりの枠を利用し、ファミリー・サポート・センターでは、3歳から小学校低学年までを預かってもらえると、助かる家庭は増えると思う。

⇒[事務局]前回もそのような意見をいただいたが、実現には至っていない。平日の一時預かりは、ターゲット層を6か月から3歳としており、ファミリー・サポート・センターで、そこも見えていくが、ニーズとしては今後、それより上の小学校低学年が増えてくると思うので、令和7年度の事業計画では小学生の利用の見込み量を上げている。諸問題はあるが、そこは検討が必要だと思う。

⇒[委員]0歳から切れ目なくサポートしてくれれば、魅力的な市になると思う。また、年齢によってアクセスの場所が変わると、一般市民は負担になるので一本化してほしい。

⇒[事務局]利用者のニーズに寄り添って対応ができる仕組みにしたい。

⇒[委員]ゆめるん課のコンシェルジュの方が、間に入ってつないでくれるとすごくいいと思う。

⇒[事務局]私もコンシェルジュをしており、総合調整係としてそのようなご案内をさせていただいている。今はもう一人いて、講習を受けている職員も一人いる。

⇒[事務局]アフタースクールについてだが、市内に小学校が15校あり、14校区で展開している。13校区では放課後健全育成事業を実施しており、それをベースにしたアフタースクール事業を展開している。令和7年度・8年度の2年間で、15校区の事業化を目指している。

[会長]学童保育と放課後子ども教室は一体化されているのか。

⇒[事務局]そうである。

[会長]子育ての支援と子育ての支援を、一体的に包括的に行っているが、南あわじ市の特徴が出るような軸をつくってもらえたらと思う。それから親御さんのアンケートを見ると、子どもの遊び場の要望が一番多い。夢みたいな話になるが、大きな都市には子ども・子育てセンターのようなものがある。イメージでいうと、神戸市の大型児童センターのようなものだが、子どもが遊べるスペースがあり、感覚統合あそびなどの教室もあったり、障がいのあるお子さんの相談や1年目のパパママ相談ができたり、ペアレントトレーニング(家庭療育支援講座)があったり、そのようにプロの方が指導してくれるような場が南あわじ市の中心部にあればと思う。

⇒[事務局]南あわじ市にも福良地区に1つ小規模な児童館はある。そこは立地的に駐車場がないので、その地域だけの場所になっている。しかし、南あわじ市にはイングランドの丘があり、市民であれば無料で利用できる。ここは屋外の広場なので、雨が降ったときに遊ぶ場所がない。

⇒[会長]コロナの流行以降、実施できていないが、うちの大学では毎年5月に1年生 100~150 人を連れてイ

ングランドの丘にキャンプに来ていた。南あわじ市文化体育館の元気の森ホールで運動会をして、ホテルで1泊して、帰りに必ずイングランドの丘に行くという行程だったが、あそこはいいと思う。

⇒[委員]もったいないのが淡路ふれあい公園で、使っているのはグランドだけである。自然もあって以前は渡って行ける池もあって、子どもたちもたくさん集まってきた。今はお年寄りの散歩コースになっている。

⇒[委員]洲本市の友人からは、南あわじ市民はイングランドの丘が無料だから気軽に行けていいよねと言われる。洲本市には大型交流拠点があるが使いにくいと聞く。0歳から幅広く遊びに来ており、小学生が走り回っている横で0歳児がハイハイしていたり、すごく危険だと。南あわじ市に室内あそびができる場所として、ボールプールやすべり台があって、その横にカフェも併設されている素敵な施設があったが、コロナで運営が止まってしまっている。あそこは市の施設か。

⇒[事務局]市の温泉施設ではある。子どもの遊ぶスペースは復活しているが、同スペースのカフェは休止しているので、施設の他の場所で購入するなどしないといけない。

⇒[委員]秩序が保たれており、衛生面でも安心できる場所にはお金を払ってでも行きたい。だから、雨の日は大型交流拠点に行くか、その近くの大型商業施設に行くかとかの話になる。

⇒[事務局]南あわじ市でも、雨天時に遊べる大型の施設があればいいねという話はあるが、いろいろな課題があり、実現が難しい。

⇒[委員]公民館はおもちゃを充実していただいたので、土日は開いていないが、平日は小さいお子さんは十分に遊べると思う。公民館は各地区にあって歩いても行けるが、知らない人が多いので、見せ方は大事だと思う。

⇒[委員]自身の地区公民館は7月から中央公民館だったところに移転して、以前の公民館のように和室一室は占有ができなくなったが、ロビーの一角にスペースをつくって、保育園の帰りに寄ったり、小学生が学校帰りに寄って宿題をしたりしている。

⇒[委員]自身の地区公民館では、キッズスペースとして8畳二間あり、4年くらい前の公民館長が、子どもが遊びそうなボールプールや本、黒板、小さな乗り物などを用意したのだが、公民館がフィーバーしすぎて自転車だらけになった。午前中は、保育所に通っていないお子さんとお母さんが利用されて、午後は小学生が常に5~6人来ている。高学年の子も来ていて、男女問わず絶えず笑い声が聞こえてくるので、環境としてはこれでもいいのではないかと思う。このように、地域の中には居場所として力を入れている交流センターがたくさんあると聞いている。保護者のネットワークの中で、どこに何があるか情報共有して、いいところ巡りをしてほしい。

⇒[委員]私も住んでいるところは違うが、その地区公民館に遊びに行っている。午前中の看板が出ているときだけ使えるようになっており、午後は放課後子ども教室に利用されている。

⇒[委員]事故が起こると、どうしても責任の所在を明確にしないと世の中にならなくていいので、誰でもどちからでも来てくださるとは言えないハードルがあるように思われる。いろいろ物事を進めていくときには、ハードルや弊害がいっぱいある。

⇒[委員]小学校中学年ぐらいの子どもたちが、「ただいま」と公民館に帰ってくるが、5時で閉めるときに「僕らはどこに行ったらいいの?」と聞かれる。やはり、家に帰っても誰もいない子どもたちにとって、顔見知りの人がある地域の安心できる居場所は大事だと感じる。

⇒[会長]公民館が児童館の役割を果たしている。

⇒[委員]すべての校区がそういうわけではないかと思う。

⇒[委員]高いおもちゃは自分では買えないので、遊べる場所があるとありがたい。

[会長]大学の新しい事業展開として副専攻制度を導入し、おもちゃづくりのコースをつくった。学生がたくさんいるので、おもちゃができれば南あわじの公民館に持ってこようかと思った。

⇒[委員]使ってみての感想を伝えるのもいいと思う。

[委員]アフタースクールの指導員をしている。アフタースクールに来ていた子が迷惑をかけたという話もあるが、地域に行ける場があるというのは、少し窮屈であったとしてもありがたいことだと思う。この頃、小学校に外国籍のお子さんが転入してきて、支援は少し大変だが、子どもたちは身振り手振りでやっていて素晴らしいと思う。翻訳機能は間に合わない。

⇒[事務局]保育所の園庭開放は、平日の昼間、決まった時間に少ししかできていない。やはり事故が起こったときの管理責任の問題があるからだが、土日も開放できれば皆さん喜ぶと思うので、安全面を考えながら検討していく必要があると思う。南あわじ市の商業施設には小さいながら絵本コーナーもあるので、利用いただければと思う。

⇒[委員]うちは小1、年中、0歳だが、小1の子が「遊びたかったのに閉まっている」と言っていたことがある。なかなか時間のタイミングが合わない。おもいやりポイントの読み聞かせ活動の方が来ていたと思う。

⇒[事務局]開いている時間が11時から16時と短くて申し訳ない。第2・3・4金曜日の午前11時から絵本の読み聞かせをやってもらっているので、ぜひご利用いただきたい。

[委員]「公園」という言葉が先走っているが、「公園」というより委員の皆さんが言われるように、大事なのは「子どもの居場所」だと思う。「子どもの居場所が確保できている南あわじ市」というようなフレーズがいいと思う。子どもたちは、目新しく魅力的な遊具を求めている。南あわじ市の公園にも魅力的な遊具が設置されたので、南あわじ市民だけではなく洲本市や北のほうから車で来られている。何もアピールはしていないが口コミで広がっていて、今とても流行っている。

⇒[会長]「子どもの居場所がいつもそこにある南あわじ市」というようなフレーズはいいと思う。

⇒[委員]1か所に集約する必要はない。分散化するのがいいと思う。行政がパイプ役になって、地区の自治会や交流センターなど開放して、そこに育児などに長けた人が常駐できれば、子育ての悩み解決にもつながる。それが理想だ。事故があったときのことや危険なことについては、マニュアルの作成が必要かと思うが、大きなところに放り込むのではなく、それぞれの地域でおもしろいことができ、口コミが広がればそこで競争も生まれ、お客さま満足度ではないが、地域も活気づいて活性化していくのではないかな。もちろんいいことばかりではないと思うが。

[委員]大体どこの公民館にも、遊具がある部屋が用意してあるのか。

⇒[事務局]そうである。

⇒[委員]公民館に遊びに行けることを知らない人は多いと思うので、こんにちは赤ちゃん訪問を行うときに、公民館も充実しているみたいだからのぞいてみてねと紹介するといいいのではないかな。

⇒[委員]赤ちゃん訪問で家に来てもらうのもいいが、また別に日時を決めて年代ごとに公民館に集まって一緒に遊べると、この地区にこんなに赤ちゃんがいたんだということもわかるし、お友だちもできるし、小学校中学校とずっと一緒になる人もいると思うので、横のつながりもできると思う。そのような、つないでいく取り組みもあればと思う。児童委員さんなども来てもらって、お茶でも飲みながらゆっくりお話できるような雰囲気があると、またその地域で子育てしていきたいという口コミも広がっていくかもしれない。

⇒[会長]保育所、幼稚園、小学校に喫茶室をつくりましょうという話が出ている。親がいつでもお茶を飲みに来られて、そこが仲間づくりの場になるような喫茶室だが、実際にそれをやっている保育所が稲美町にある。この頃はそれがおもしろそうだとすることで、地域のおじいちゃんおばあちゃんも来て子どもたちと遊んで帰るということが、自然とできるようになっているそうである。

⇒[委員]自身の地区の自慢だが、公民館にスティックコーヒーやお茶などを用意してくれていて、20円でお茶ができるような環境ができています。幼稚園の隣りが公民館なので、子どもを送ったあとそのままお茶してランチに行くこともある。

⇒[委員]それが、本来の交流センターの理想のあり方だと思う。

⇒[委員]今は地区の幼稚園は10人しかいなくて、ドライブスルー方式で幼稚園に送っている家庭も多いので、親同士が話す機会が減っていたのだが、第1子を預けているお母さんなどは仲良くなりたいと思うのでとてもいい環境だと思う。

⇒[委員]皆さんの話を聞いて知らないことが多かった。自身の地区公民館を利用する機会がなく、保育所の先生との面談で公民館を利用することはあっても、放課後に子どもたちが集まったり、おもちゃが充実しているなどの話は聞いたことがなかった。いつも子育てひろばがあるときは、別地区の公民館で遊ばせてもらっていた。公民館のことも南あわじ市の子育て支援事業のことも、知らないことが多い。自分の子どもの年齢に関わることはキャッチしやすいが、子どもの年齢層が違うと話していても施設の情報などは出てこない。イベントのチラシは入ってくるが、もう少しみんなが遊びに行けるよう、まんべんなく情報が広がればと思う。

⇒[会長]「公民館子どもキッズコーナー情報」というようなタイトルで、詳しい内容がわかるといいと思う。

⇒[委員]公民館とか交流センターの活動について、自治会でも伝えていくようにしたい。

[委員]小2の子どもがアフタースクールを利用しているが、いろいろな分野の先生が来てくださり、どんぐりを使ったやじろべえなど、自然物を使った昔遊びだったり、昔話や伝統などについて話して下さりそういうものを絶やさないうような努力もされている。年齢を重ねていくと、昔話と自分を重ねて感じるものがあるので、子どもにも大事に受け継いでいきたいと思っている。

⇒[委員]そういう話は小学校低学年でないと聞いてくれなくなる。小さいうちに伝えたい。

[委員] 前回の会議で公民館もがんばっているという話があったが、今回公民館や交流センターの話題がたくさんあってうれしかった。今年4月にあったセンター長会の公民館紹介で、キッズルームの写真を集めて市役所所管課に送っているので、一覧になって見られるようになると思う。先程、20円でコーヒーが飲めるという話があったが、自身の公民館でも1階ロビーのオープンスペースに小綺麗な机と椅子を並べており、そこで湯茶を提供しようとしている。

⇒[委員]地域に居場所があるというのは、子どもにとってもお母さんにとっても大切だ。

⇒[委員]子育て中のママは、授乳していたり、妊娠していたりするので、ノンカフェインのものやホットレモンなども置いてもらえてうれしい。以前、子育て広場をやっていたときに、ゆめるん課さんから公民館の話を聞いて、一人のママが全部の公民館を回って、個人のインスタでそれぞれのおすすめポイントなどを動画で発信していた。

[委員]幼児教育の研修に行くと、もっぱら子ども誰でも通園制度の話になる。ほとんどの自治体が、国から言われている令和8年に合わせてやるとのことだが、どのようにやるのかもまだ全然決まっていないうだ。大きな都

市はやっているが、南あわじ市のようにファミリー・サポート・センターに頼んでいるところは少ない。保育所など民間委託が多いので、お昼をまたぐということはできているようだ。現在、1日の定員は何名か。

⇒[事務局]平日の一時預かりが6名で、保育士2名体制で行っている。

⇒[委員]来年度は量の見込が9名となっているが、事業所を増やしていくことはあるのか。園での事業など、各地域にあれば移動面からも預けるのは楽になると思う。

⇒[事務局]こども誰でも通園制度について国に要望をしているのだが、1人に対する経費の補助が少なく、現実的にやっても人件費も出ない状況になる。それを事業としてやるかという、採算が取れずマイナスになる。令和8年度の本格実施に向けて、それまでの間にどのようになるかを確認してから方向性を決めたいので、今は現状のまま定員6名で検討している。

[委員]10歳の子どもがいるが、1歳のときからゆめりんセンターに通っている。8～9年前は、「子育てするなら絶対南あわじがいいよ」と言われていた。私は島外から来たのでなぜかと聞くと、「制度が整っているし、幼稚園が第1子から無償なんやで」とのことだった。私はそれがすごいのかもわからなかったので、実家に帰って友人に話すとすごく驚かれてうらやましがられた。しかし、その後全国的に無償化となり、南あわじ市の独自性がなくなってしまった。そこから、子どもの数が少なくなっているのを実感していて「子育てするなら南あわじがいいよ」と今言えるのだろうかと感じている。子どもが小さいときは手厚くしてもらって、淡路島は食べ物も美味しいし、幼稚園と保育所が自由に選べる自由があり、子育てのしやすさを実感していたが、小学校に入ると、急に子育て支援は何があるのかわからなくなった。実感がなくなってしまった。アフタースクールには小4だが入れてもらえていて、都会の人からすると「小3までではないの！」と驚かれるが、小さいときに子育てするなら南あわじ市だと思うかという、都会の方が選択肢があるなと目を向けてしまう。南あわじ市ならではの学校教育をやらせると、島外にも発信しやすくなる。そこが弱く他でもありそうと感じた。

⇒[会長]南あわじ市独自の、きらっと光るようなものがほしい。

[委員]議会の中継をよく見るが、南あわじ市は本当に子どもを大事にしていると感じる。「子ども議会が出た意見は通そう！」といろいろ考えてくださっていたり、公民館は地域の会議などをする場所というイメージだったが、議会の答弁でカフェがほしいという意見が学生から上がると、片付けさえすれば公民館を使っていいよと言ってくださったり。また、今日の話で聞いた、公民館に子どもたちのいろいろな遊び道具が揃えてあるとか、実際にカフェスペースができて公民館もあるとか、おじいちゃんやおばあちゃんにとっても居場所になるし、横のつながりもできて、それが公民館という既存のものをうまく使って工夫してできていることが大事だと思うし、公民館にこんな働きがあるということを再発見した。それから、淡路ふれあい公園の話があったが、ゴールデンウィークに子どもと孫を連れて行って見た。本当にきれいに整備されていて動画でどこをとっても美しいが、私たちが子育てをしていたときと比べると人がとても少なかった。それから、論鶴羽公園も本当にいいところで、雄大な山々のふもとにテニスコートや遊具があって、南あわじならではの自然と公園のコラボレーションは気晴らしにもなっている場所なのだが、そういうのもうまく利用できればと思う。もう1点、南あわじ市は「学ぶ楽しさ日本一」と謳っており、小学校に勤めている身としてがんばっている。理科室は最近まで32℃になる日もあって、教室でできる時はいいが実験は理科室でしかできないし、専科となって移動もしにくいので、授業以前に熱中症など子どもの健康が心配である。最低限の健康と安全が守れるようぜひお願いできればと思う。

⇒[委員]これまで話を聞きながら、どうすれば今の若いお母さん方に情報が届くのだろうかと考えていた。情報は受け手に届かなければ意味がないと思う。

⇒[委員]インスタかなと思う。

⇒[委員]あんしんネットだと見るのではないかな。

⇒[委員]広報はいかがかな。

⇒[委員]広報は入る場所と入らない場所があって、私は公民館からもらって見ている。

⇒[委員]新聞をとっていない場合は、市役所に言うのと郵送もしてもらえる。

⇒[委員]5年前に移住して来るときにネット検索をしたが、ゆめるんセンターしか出てこなかった。都会から移住してくる人が検索したときにヒットするようなアカウントが1つほしい。南あわじ市にも確かあるが、動いていないように思う。

⇒[委員]伝え方に問題があると感じている。公民館のキッズスペースも何年もかけて全箇所につくっているし、子ども議会で公園がほしいと言われるので、5か年かけて遊具を整備して校庭開放をした。確かに魅力的な遊具が取り揃えられてはいないかもしれないが、できることからやっている。市立図書館、三原分館もそうだが、子どもさんのスペースやくつろいで本を読めるスペースもある。市立図書館の方には公園も整備されている。アフタースクールも、いろいろな先生に入っただきやっている。しかし、これも情報発信ができていないのだと思う。今日、聞かせてもらった内容は現場に伝えて、取り組みを進めていきたいと思う。

⇒[委員]インスタのアカウントが一番見やすいと思う。あと、公園の情報はハンドブックに書いてあるが見にくかったため、ゆめるん課がホームページ上でわかりやすいように整備してくれた。しかし、整備されたという情報が届いていない。さんさんネットは結構見ていると聞いている。

[委員]学校で紙の案内配布がなくなっていくという話があるが、どうなっているのだろうか。

⇒[委員]紙の方が伝わりやすいものについては紙で配布するが、先生方の業務改善を考えて、紙のものとデータのものをすみ分けていき、いい方向に持っていきたいと思っている。

[委員]今日のお話を聞いて、市として分野横断的に取り組んでいかないといけないということを改めて実感した。子育てに関しては、基本ゆめるん課でやっているが、アフタースクールとか公民館、交流センターは教育委員会や市民協働課、淡路ふれあい公園だと商工観光課、公園は都市政策課など、同じ方向に市全体が向いていかないといけない。認識はしているが、お互いわかりにくいところもあるので、改めてしっかりと共有していきたいと思う。

[事務局]情報提供の仕方は考えていく必要があると強く感じた。今プロモーション室を設けて2～3年前から改善に取り組んでいる。南あわじ市としては、facebook、インスタグラム、Xの公式アカウントを持っているが、それも知られていない。フォロワー数は4,000弱くらいなので、南あわじ市の人口44,000人の10分の1程度である。日本各地からフォロワーがあってもいいと思うので、情報発信のあり方を考えていきたい。

[会長]多くのご意見をいただくことができ感謝申し上げます。次の議題について、事務局から願います。

(2)その他／(3)次回(第30回)の開催時期について

[事務局]いただいた意見を事業計画に盛り込めるよう検討していく。こども計画はまだ策定ができていないが、「子どもの居場所」「こどもまんなか社会」の実現に向け、いただいた意見を盛り込んで事業計画を修正したいと思う。次回の会議については、パブリックコメントを実施後に、その意見等も踏まえた計画の調整としての協議

を予定している。12月にパブリックコメントを予定しており、この会議が次回1月後半を予定しているため、先ほど話し合った内容を踏まえて作成した素案を会長に確認いただき、皆さんにもメールで送らせていただき、ホームページ上に公表するという流れでいきたいと思う。修正箇所の確認については、会長の一任になるがよろしいか。

(異議なし)

次回会議は1月27日を予定している。時間帯は13:30～15:30を予定する。

[会長]今日の議題は以上となる。

4. 閉会

[事務局]貴重な意見をいただき感謝申し上げます。閉会の挨拶を会長にお願いする。

[会長]本日は遅れて申し訳なかった。いろいろな角度から意見をいただいたので、事務局で意見をまとめ、1月にはまた議論ができればと思う。本日はありがとうございました。

以上